

みはま通信

50
ANNIVERSARY
SEIJKAI
2025

VOL.05

2025.December



TAKE FREE

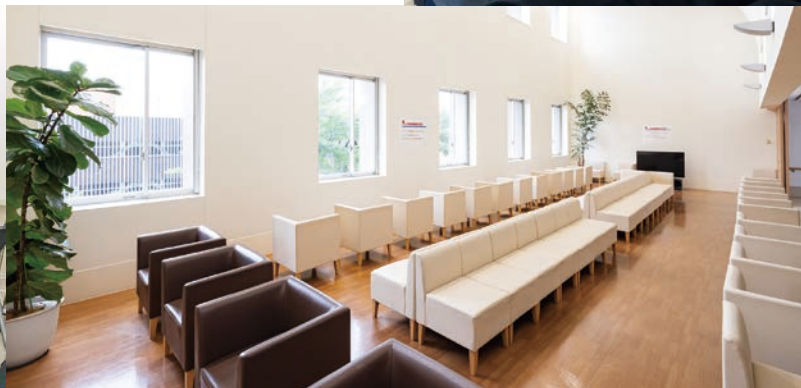
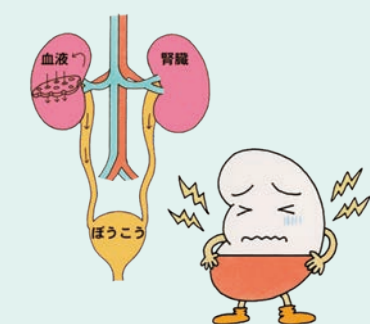
ご自由にお持ちください



特集 腎代替療法について

みはまグループは昭和50年に千葉市真砂に、泌尿器科及び人工透析の専門施設として「京葉泌尿器クリニック」を開設したのが始まりで、今年で50周年を迎えています。現在はみはま病院、みはま佐倉クリニック、みはま成田クリニックおよびみはま香取クリニックの4施設からなり、いずれの施設も泌尿器科、透析を中心とした「腎代替療法」および慢性腎臓病の重症化予防に特化した診療を行っています。今回はこのうち「腎代替療法」がテーマです。みはまグループは透析に用いる透析液の清浄化を他施設に先駆けて実施し、十分な透析を行うことにより腎不全患者さん特有の合併症をできるだけ減らすことに努力してまいりました。今回はその一端をご紹介しますと思います。

誠仁会 理事長 正井 基之



●慢性腎臓病に対する腎代替療法とは

—血液透析、腹膜透析、腎臓移植、保存的腎臓療法について—

慢性腎臓病（CKD）

腎臓の働きが悪くなった状態を、慢性腎臓病（CKD）とよびます。CKDは蛋白尿（0.15g/日以上）もしくは腎機能低下（eGFR60未満）が3か月以上続く場合をいい、糖尿病、高血圧、肥満、加齢などが原因としてあげられます。CKDは日本国民の8人にひとりの割合でみられ、末期腎不全や心血管障害の危険因子となり、生活習慣病が背景因子となって発症することが多いため対策が重要となっております。予防・治療には腎血管の保護を目的として、禁煙、体重・血圧・血糖・脂質・尿酸管理が勧められます。千葉県ではチーバくんを活用して、重症化予防対策に力を入れています。



赤シール
eGFR30未満

腎代替療法（RRT）

CKDが悪化し末期腎不全の状態になると、自分の腎臓の代わりになるような治療方法が必要となり、eGFR15未満で腎代替療法の準備を行い8未満では導入を考えなければなりません。腎代替療法（RRT）には血液透析（HD）、腹膜透析（PD）、腎臓移植があり、それぞれ利点があります。

血液透析は日本で最も行われている腎代替療法で、透析療法の97%を占めています。血液透析は週3回、1回4時間行う治療法です。ダイアライザに有効な血液量を流すためにシャントと言われる血管手術が必要となります。

腹膜透析には1日4回ほど透析液のバッグを交換するCAPDと夜間機械が自動的にバッグ交換をしてくれるAPDがあります。腹膜透析は腎代替療法中3%程度で、腹膜透析患者が増えない理由として自分でセッティングをやらなければならない点があげられます。最近ではアシストPDという方法が考えられており、訪問看護のサポートによって腹膜透析を継続していく試みがなされています。遠隔管理ツールの利用により頻回に通院しなくても患者さんの状態を把握できるようになってきています。みはま病院では患者さんに短期間入院して頂くことにより、ご家族の負担軽減を図るレスパイト（小休止）入院という方法も可能です。

腎臓移植は腎臓の提供者がいないと成り立たない治療法です。腎臓移植には血縁者より提供していただく生体腎移植と、亡くなられた方からの提供による献腎移植（心停止下および脳死下）があります。日本では年間1,700～2,000名の方が腎移植を受けられています（献腎移植200名程度）。献腎移植が少ないことが日本の特徴で、増やすための様々な行動が行われていますが増加はわずかです。移植腎を増やすための最近の話題は、ブタの遺伝子を改変しヒトに移植しても強力な拒絶反応が起こらないようにする「ブタ→ヒト腎移植」が米国を中心として行われていることです。日本でも明治大学が遺伝子改変ブタを用いた異種移植の治験を計画しています。

透析患者数

全国 347,474人¹⁾

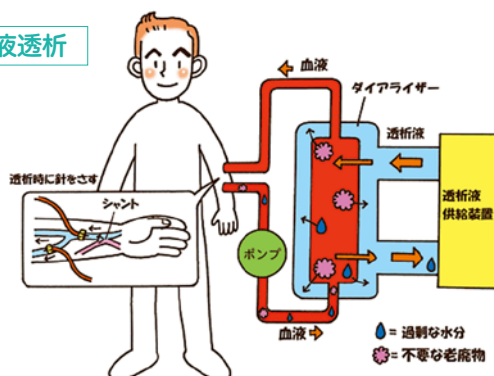
千葉県 16,382人¹⁾

みはまグループ 1,111人²⁾

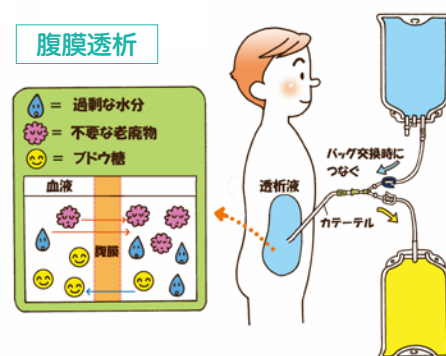
1) 2023年わが国の慢性透析療法の現状から一部抜粋

2) 2025年10月現在みはまグループ4施設の患者数

血液透析



腹膜透析



腎代替療法（RRT）選択外来

腎代替療法選択のためみはま病院では専門外来を行っており、医師、看護師、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどの多職種にて家族を交えて治療の妥当性、患者が選択した根拠を確認していきます。選択が難しい方には数回にわたる丁寧な説明や、体験入院にて決めていただくこともできます。外来では患者さんの生きがいや生活目標を話していただき、納得できる治療を選択できるよう心がけています。90歳を超えるご高齢の患者さんでも、家族の一日でも長生きしてほしいという希望に応じて透析導入を決めた方もいます。

腎代替療法

腎臓の働きが
できなくな
った時の
治療法



保存的腎臓療法（CKM）

保存的腎臓療法は最近第4の腎代替療法と言われており、透析や腎移植を行わない療法です。

～保存的腎臓療法の対象～

1. 高齢でADLが低下している
2. 認知症や重度の合併症を有する
3. 透析に対して導入の希望がなく強い拒否感を有する
4. 本人及び家族が在宅療養・最小限の医療的介入を希望するような方

日本では透析導入の平均年齢は71歳で、80歳以上の方も多く治療を受けておられます。高齢の患者さんにとっては、透析だけでなく保存的腎臓療法という選択肢もあり、十分な説明を受けながら自分らしい治療方針を選ぶことができます。

腎代替療法を選択しない場合でも、呼吸のしづらさや吐き気などの症状、高カリウム血症に対しては、投薬治療や鎮痛薬・鎮静薬を用いて緩和することが可能です。これにより、患者さんが安楽で安心できる時間を過ごし、ご自身の生活を大切にしながら穏やかに日々を送ることができます。令和8年度からは、末期腎不全も緩和ケアの対象となる可能性が高まっており、より多くの方が安心して心身のサポートを受けられるようになる見込みです。

末期腎不全の尿毒症症状に対する最終的な治療法は透析、移植しかありませんが、緩和ケアを中心とした療法にならざるを得ない状況が増えてきています。私たちの役割はその方に最良の人生を提供することに尽きると考えます。

医師紹介



おにつか しろ
鬼塚 史朗

- ・日本泌尿器科学会指導医
- ・日本透析医学会指導医
- ・日本腹膜透析医学会認定医
- ・日本腎臓学会指導医

●血液透析について

CE部 専門血液浄化臨床工学技士：内野 順司

誠仁会がめざす“安心・快適な透析医療”

誠仁会では、患者さんが毎日を前向きに過ごせるよう、安全で質の高い透析医療を提供しています。透析は長く続く治療だからこそ、「安心して任せられる設備」と「細やかなケア」が大切です。私たちは技術の向上と環境整備に力を入れ、患者さん一人ひとりに寄り添った治療を心がけています。

■ 専門スタッフによる医療機器管理

透析では、さまざまな医療機器が安全に動いていることが欠かせません。誠仁会では、医療機器のプロである臨床工学技士が責任者となり、すべての機器の点検や管理を実施。上位資格を持つスタッフも多数在籍し、安全な治療を力強く支えています。

水道水
↓
硬水軟水化装置
↓
活性炭濾過装置
↓
逆浸透装置(RO)
↓
透析用水タンク

透析用水処理装置の内部



水道水中の不純物を吸着・濾過で取り除き純水を精製する

透析液作製装置50人用×3台



厳重な濃度管理のもと透析液を作製する装置

■ こだわり抜いた「透析液」の質

透析に使用する水や液が清潔であることは、身体への負担を軽減するために非常に重要です。誠仁会では1987年から清浄化に取り組み、細菌や化学物質を極限まで排除した“超純水レベル”の透析液を提供してきました。

さらに、扱いが難しいとされる「無酢酸透析液」も早くから導入。負担の少ない治療を実現しています。

■ 一人ひとりに合わせた治療

治療法や使用するダイアライザ（フィルタ）は、患者さんの体調・栄養状態・生活リズムなどを丁寧に考慮して選びます。

- ・血液透析（HD）
- ・オンラインHDF（pre/post）
- ・I-HDF
- ・長時間透析（5～6時間）
- ・夜間透析・オーバーナイト透析

お仕事や生活スタイルに合わせて通えるよう、夜間開始枠も充実。社会復帰を目指す方をしっかりサポートします。

■ “よくある症状”にも丁寧に対応

透析では、足のつり、低血圧、強い疲れ、むずむず脚、皮膚のかゆみなどの症状が起こることがあります。「透析だから仕方ない」と思われがちですが、誠仁会では改善のための工夫を積極的に行っています。

- ・かゆみ・むずむず脚・疲労感の調査と改善
- ・透析アミロイド症対策
- ・低血圧や足のつりの予防
- ・膜素材によるアレルギーのチェック
- ・心不全につながるNT-proBNPの定期測定
- ・血管状態の評価（ABI・CAVI）
- ・栄養相談や入院での集中ケア

小さな気づきも見逃さず、患者さんが少しでも快適に過ごせるよう取り組んでいます。

■ 経験と技術を活かし、進化し続ける透析医療

誠仁会は、透析で起こるさまざまな問題に対して「どうすれば良くなるか？」を常に考え、研究や新技術の開発にも積極的に取り組んでいます。

長年の経験をもつスタッフと、全国でも高い専門性を備える臨床工学技士たちが協力し、患者さんにとって“安心できる透析”の実現をめざしています。



透析液の原材料を作製している様子



微生物汚染防止のため
厳重に管理されている

透析監視装置と治療用の椅子



透析室風景



オーバーナイト透析室風景





みはま食いしん坊倶楽部



寒い日が多くなりました。
温かい食事がおいしく感じますね。

今回は食事で体を温める『生姜』について、ご紹介します。



世界中で香辛野菜として使われている生姜ですが、
様々な作用があります。

- ・食材の生臭みを消す消臭効果
 - ・代謝を高める作用
 - ・抗炎症作用、抗酸化作用
- 等々…



生姜の2つの辛み成分

ジンゲロール

生の生姜に多く含まれる
血流を良くし、発汗を高める
指先などの末梢を温める
一方で熱を下げる作用がある



加熱

ショウガオール

加熱することで増える
血流を良くする
脂肪燃焼効果を上げる
体を深部から温める
持続して体を温める

生姜で温まるなら加熱がオススメ!!

ポカポカ温まる生姜レシピ

生姜みそミルクスープ

<材料> (2人分)

- ・かぶ 1株
- ・しめじ1/4パック
- ★水 200ml
- ・牛乳 250ml
- ・生姜 卸して小さじ2
- ・人参 1/3本
- ・油 適量
- ★ほんだし、鶏がらスープの素 各小さじ1
- ・味噌 大さじ1/2

※具材はお好きなものでOK

<作り方>

- ①野菜は食べやすい大きさに切る
- ②切った具材を油で軽く炒め、★印を加え5分ほど煮る
- ③味噌は牛乳で溶いておき、②の鍋に加える
- ④卸した生姜も加えて、ひと煮立ちさせる
- ⑤器に盛り付け、完成!



(1人分あたり)
エネルギー: 141kcal
たんぱく質: 5.8g
カリウム: 453mg
脂質: 161mg
塩分: 1.3g



生姜の国内生産量は…

都道府県別ランキング



高知県



熊本県



千葉県



順位は10年連続変わっていません

県内産のものをぜひ、普段の食事に取り入れていきましょう。

誠仁会 栄養部

CE部 専門血液浄化臨床工学技士：吉澤 翔太

当院の臨床工学部（CE部）は、院内すべての医療機器を管理し、安全で質の高い医療提供の柱となる専門部門です。現在50名以上の臨床工学技士（CE）が在籍しており、これは地域でも有数の規模です。多くのスタッフを擁する理由の一つには、日々の臨床業務に加えて、研究・開発への積極的な取り組みがあります。近年では手術支援ロボット「da Vinci（ダビンチ）」の導入により、手術室領域にも参入し、より高度な医療に対応できる体制を整えています。

中でも当院の強みは、血液浄化領域に精通した技士が多く在籍している点です。血液浄化認定士の資格取得者は25名以上、さらに高度な上位資格を持つ技士も13名在籍しており、全国的に見てもトップクラスの専門性を誇ります。CE部は「知識と技術を磨き、その成果を患者さんに還元する」という理念を掲げ、より質の高い透析治療の実現を目指し続けています。

CE部では毎月、28年続く院内勉強会を開催しています。当初は臨床工学技士のみで行われていましたが、現在では医師をはじめ看護師、臨床検査技師、管理栄養士など多職種が参加し、臨床での改善点の共有や研究成果の発表を行う場となっています。こうした継続的な学びと多職種連携は、より良い医療環境づくりに欠かせない取り組みです。

また、国内外の医療現場から常に新しい知見を取り入れる姿勢も、当院ならではの特色です。2011年の新築移転時には、処方透析の導入や電動車椅子のまま測定可能な体重計の配置など、世界で見聞きした「良いもの」を積極的に取り入れてきました。こうした改善の積み重ねにより、当院の透析関連マニュアルは学会が発行する公式マニュアルの参考資料として用いられるなど、高い評価を得ています。

これからもCE部は、地域の皆さまに信頼され、安心して医療を受けていただけるよう、技術と知識の研鑽を続けてまいります。



勉強会の様子



患者支援センターからのお知らせ

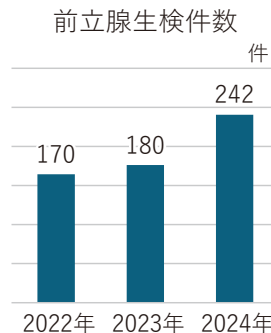
今後の医療講演会のご案内

第5回	2026年 1月15日(木)	泌尿器科がんについて ～前立腺がんの診断と 治療を中心に～	医師： 大塚 耕太郎
第6回	3月12日(木)	CKD（慢性腎臓病） 重症化予防 足のケア	医師： 福田 亜純 看護師： 鈴木 史子

会場はみはま病院です。詳しくはホームページをご覧ください。

泌尿器科

当院では、前立腺がんの2次検査体制を整えています。PSA検査の特異度の向上にも努めます。また、前立腺生検を行う場合には、より高い精度で行うため、MRI/超音波融合標的の生検システムを導入しています。



「腎代替療法が必要になる……」。それだけで患者さんやご家族は大きな不安を抱えていらっしゃると思います。どんな選択であっても生活し続けられるように、患者支援センターでは、腎不全患者さんを支える社会資源をご案内しています。例えば、血液透析患者さんの通院支援として、無料の送迎バスがあります。慢性腎臓病（CKD）の段階に応じた社会資源を知ることによって不安が解消できるかもしれません。お気軽に患者支援センターへご相談ください。



2025年開院50周年を迎えました。私たちは、誠仁会の理念である「現時点で自分達ができる最良の医療を提供し続けていく。」のもと切磋琢磨し地域医療に貢献します。

みはま病院

〒261-0013
千葉県千葉市美浜区打瀬1-1-5
TEL：043-271-2200
FAX：043-271-2288



みはま佐倉クリニック

〒285-0841
千葉県佐倉市下志津602-1
TEL：043-461-2111
FAX：043-461-7622

みはま成田クリニック

〒286-0041
千葉県成田市飯田町129-1
TEL：0476-29-8811
FAX：0476-29-8833

みはま香取クリニック

〒287-0041
千葉県香取市玉造2-9-3
TEL：0478-52-0011
FAX：0478-52-0012

